

この度、会津大学職員の蓮沼ふみさんを通じ、東京の武蔵高等学校に所蔵されていた、同校の校長でもあった、山川健次郎の自伝の冊子を会津大学が入手しました。山川健次郎が昭和6年ごろに行った4回の講演を文書化したものです。当時からは60年前の話ということになります。山川少年の経験した波乱万丈のできごとが書いてあります。この冊子は会津大学の図書館に寄贈されましたので、興味のあるかたは、それを図書館から借りて読んで下さい。その表紙と目次はこのPDFファイルに示してあります。

今年は、会津若松市は戊辰150年の節目を迎え、様々な催しを行っています。会津大学でもそれに協力したいと思っています。会津大学は教育機関でもありますので、戊辰戦争にも関わった山川少年に、教育の点から関心があります。それを少しここで触れたいと思います。

この冊子にも書いてあるように、山川少年は、15歳で会津の戦いに参画したとき、白虎隊に入るも力が弱いということで、除隊されましたが、最後の籠城の戦いには参加できたようです。その後、いろいろあって、東京に出るも、貧しくて学校にいけないうところ、北海道開拓には寒い地方の人間がむいていると、米沢藩と会津藩から、1人ずつ選ばれて海外に派遣されることになりました。山川少年は会津藩から選ばれた1人です。山川少年はアメリカに行くのですが、学校に入るも数学ができず困ってしまいます。山川少年が学んだ会津の藩校「日新館」は漢学が中心で、洋学の数学の知識が皆無であったようです。日本もそのころすでに洋学は幕末には盛んに入っていましたので、洋学の知識は一部の知識人にはありました。それで、幕末、咸臨丸に乗って使節団（勝海舟、福沢諭吉も含まれました）がアメリカにいきましたが、いろいろ工業関係の施設を案内されたとき、アメリカ側の説明者は、日本からの見学者に「初めてこんなものを見たであろう」といったそうですが、日本人のほとんどは洋書をたくさん読んでいましたので、特段新しい知識を学んだということはないということでした。しかし、山川少年は「日新館」の知識に留まっていたので、「波乱万丈」の苦勞をすることになりました。それでも、漢学でも、ものを学ぶという作業自体はできましたので、苦勞しても、エール大学の物理学科を卒業します。勉学は、単に学ぶ内容に意味あるよりも、学ぶという精神を涵養することにより意味があることを示しています。日本が明治以降、西洋の科学技術にキャッチアップできたのは、江戸期における勉学の経験とそのための意識が高かったのが機能したのではないかと思います。

現代は、これまでとは違い、過去の知識を学ぶという精神の時代を超えて、これまで存在しない新しい知識を作り出すという能力が、基礎能力となっている時代です。そのためには、どのような知的な「波乱万丈」を経験しなければならないかを、山川少年の「波乱万丈」を参考にしたいものです。

山川老先生

六十年前外遊の思出

山川老先生

六十年前外遊の思出

武藏高等學校

六十年前の御渡米の思い出
山川校長

一昨年本校第三回外遊生送別會の席上で、山川校長に六十年前の御渡米の思い出の御話を願つた。それが二回三回と續いて第四回に至つた。わが國武士の風格を傳へた最後の入たる老先生の青年時代の記録として、非常に面白いのみならず、當時の外遊者は百を以て數ふべきであつたが、その詳しい記録が極めて乏しい現状に於て、史料としても亦極めて尊重すべきものである。殊に第三回中、敵兵警備の間を、敗餘の一少年が、一刻後の運命をも知らないで脱出した氣持の如きは、他では伺ひ難いものである。涙を含んでそれを語られた先生の眼底には、朝敵たる心がなくして朝敵と呼ばれ、城は落ちて巷は焼け、君臣離散して親子相別れた當時の慘狀が、在々と映つたことであらう。先生半生の事業たる會津戊辰史はその中に世に出よう。しかしこれ等の御話は同書には載るまい。この書は一面會津陷落史として面白い。舊藩主家から尊貴に御入興があり、舊主君の靈も地下に瞑せられた今日。先生も晏如としてこの御話ができたのであらう。

本書を読むには御話の順序からすれば回を追ふべきであるが、内容からすると、第三回

を先づ見た方がよい。米國に入つて米國に心酔せず、外國の學術を修めてよく日本の精神を體現した東北男子の氣分は、第四回に於ても微見できる。

二五九一年四月
山 本 良 吉

右の文を草したまゝで、未だ印刷に附さない中に、先生は白玉樓中に入られた。先生の功業は既に成つてゐるが、先生の志は未だ遂げられたとはいへない。會津史も二千頁ばかり原稿ができてゐるとは何つてゐるが、未だ完成に至らぬ。思想も風紀も憂ふべきわが社會の現状に於て、意見の上の賛否は別とし、先生の長逝は、一樣に哀悼の情にたへざらしめた。本校に於て、やがて催すべき追悼會の席上で頒つために、この書を急いで印刷に附する。九一年七月一日 重識。

目 次

- 第一回 渡米事情.....一
- 第二回 在 學.....二
- 第三回 外遊前談.....三
- 第四回 米國漫談.....三

昭和六年七月十日印刷
昭和六年七月十四日發行
非賣品

東京府下板橋町字瀧野川二四六二

編輯兼發行者 田友三郎

印刷者 東京府下落合町四ノ一七七五
榮 溝口

發行所 武藏高等學校會